

流行ニュース：

< コレラ、チャド >

チャド西部で2004年6月14日から8月22日までに98例の死亡を含む2,046症例(致死率4.8%)が報告された。集団発生は首都ン・ジャメナ北部のMassaguet (Hadjar Lamine)で発生し、そこからン・ジャメナのみならずLacおよびKanem地方にまで拡大した。先週にはン・ジャメナで453症例が新たに報告された。現在ン・ジャメナで、市議会は保健省および他のパートナーとともに衛生設備と安全な飲料水の供給を改善するために活動している。

< E型肝炎、チャド(更新¹) >

2004年6月26日から9月2日までに、E型肝炎疑い例1,077例と死亡35例(致死率3.2%)がGoz Amer(973例、死亡31例)およびGoz Abal(63例、死亡3例)の難民キャンプとその周辺地域から報告された。9月2日に、WHO調査チームはGoz Amerに近いKoukouを訪れ、そこでE型肝炎のリスク要因を特定し、飲料水と衛生状態を対象とした適切な制圧対策を勧告している。参照：¹No.36, 2004, p.321

< 狂犬病、フランス >

2004年9月1日、フランス保健当局はヒトおよび他の動物に伝播する機会の多い狂犬病感染犬新症例をWHOに届け出た。WHOはウイルスの伝播が考えられる期間に狂犬病感染犬に接触していたとされる人および動物の行方捜査支援のため警告を発令した。

2004年8月26日、フランスのパリにあるパスツール研究所はその犬が狂犬病に感染していたと報告した。その犬は、2004年7月初旬にモロッコのAgadir付近で捕獲され、同月11日にフランスへ違法に輸入され、8月18日に初症状を呈し、21日に死亡した。この犬からヒトおよび他の動物への伝播は2004年8月2日から21日の間に起こりえたと考えられる。その間、その犬はヒトおよび他の犬と何回か接触し、何人かが噛まれたと報告されている。そのうち特定されたヒトについては狂犬病ワクチンが接種された。現在、フランス当局は感染の可能性のあるヒトおよび動物について緊急追跡調査中である。

ウイルス性の疾患である狂犬病は唾液、咬合、擦過、あるいは舐めるといった行為によって感染し、ヒトおよび動物に感染した場合には致命的である。しかし、感染を受けてすぐにワクチンを接種するか適切な時に免疫グロブリンを投与すれば発病を抑止できる。詳しい情報については“狂犬病に関するWHOの記述”¹あるいは“WHO狂犬病ウェブサイト”²を参照していただきたい。

参照：¹<http://www.who.int/mediacentre/factsheets/fs099/en/>、²<http://www.who.int/rabies/en/>

< 急性弛緩性麻痺 (AFP) サーベイランスの実施とポリオの発生率、2003-2004年 > (WER 参照)

今週の話題：

< ハンセン病撲滅のための特別キャンペーン：改善事業 >

* はじめに：

1995年以来、ハンセン病の取り扱い件数が多い地域あるいはハンセン病コントロールが不十分である地域で特別キャンペーンが行われてきたが、症例数が減少する様子はなかった。むしろ新症例と最近の報告における高い身体障害率は、伝播を維持している潜伏症例の存在あるいはハンセン病制圧運動が不十分で、地域社会のほぼ全患者の早期診断と治療促進の強化が必要であったことを示している。これらの地域では、多剤併用療法(MDT)が典型的に乏しく、病気意識も希薄で、ハンセン病に対して否定的な認識が一般社会で持続している。この現状における特別キャンペーンの実施目的は以下の通りである。

- ・ 一般ヘルスケアワーカーの能力開発
- ・ 社会的意識の向上および市民参加の促進
- ・ 全ハンセン病患者の正確な診断および完全なMDT治療の供給
さらに女性が治療を受ける機会が少ないというギャップをなくすための努力がされた。
そこでMDTの強化および維持のために以下の活動が重点的に実施された。
- ・ 治療できることおよび無料MDTの供給というハンセン病についての社会的意識の向上
- ・ 診断を行える場所の明確な情報の提供
- ・ 正確な臨床診断および分類の実行
- ・ MDT初回投与による治療の開始および完全治療の重要性についての明確な情報の提供
- ・ 一番近い保健施設での治療の継続および有害事象の緊急報告の重要性についての情報の提供
- ・ ハンセン病に対する否定的な認識の除去

* 特別キャンペーンの成果：

a) 症例の検出：2002年の国家計画によって実施されたキャンペーンで報告された検出率の差は大きく、ネパールの11地区の48.42(100,000対)からインドのUttaranchal Pradeshの1.27(100,000対)に

至った。多菌性ハンセン病の割合および新たに検出された症例中グレード 2 障害の割合はミャンマーの Ayeyarwady および中国の 58 都市で行われたキャンペーンの中で最も高かった。(表 1)

b) MDT サービスの向上：MDT の改善策として一般ヘルスワーカーに対してハンセン病の診断および管理能力の促進のために再教育コースを立ち上げた。

c) コミュニティー参加の増加：キャンペーンは様々な社会団体および宗教指導者の支持と参加をもって実施され、成功した背景にはボランティアおよび地元ヘルスワーカーの積極的な参加が存在していた。

d) 意識の向上：ハンセン病に対する意識向上のためキャンペーン実施区域でポスターや横断幕の提示あるいはビラの配布を行い、可能な地域ではテレビあるいはラジオといったマスメディアも利用した。その結果、最も効果的な手段は地元ヘルスワーカーと市民の人間相互間のコミュニケーションであった。

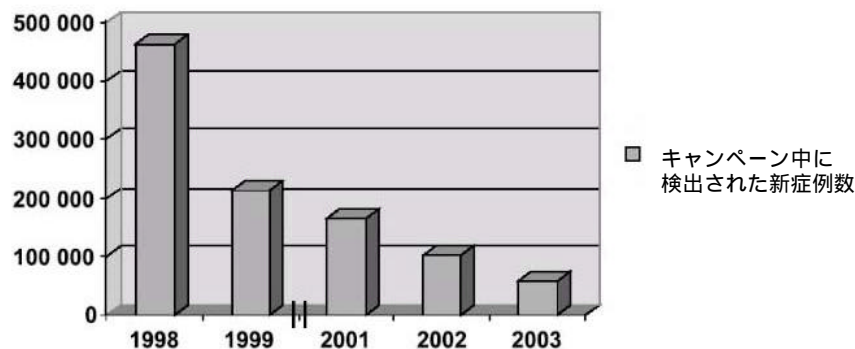
表 1：特別キャンペーン中の新症例の検出、2002 年 (WER 参照)

* 特別キャンペーン実施地域の検出傾向：

4 回の特別キャンペーンによって検出された新症例数の結果では、インドおよびミャンマーの Ayeyarwady といった流行地における新症例数は回数を重ねるごとに減少傾向を示した。さらに、初回の結果と比較して、大部分の地域においてグレード 2 障害を示す新症例が検出される割合もまた減少し、早期に診断がされたことを示していた。またその他の地域については、長期間未検出であった患者に治療を受けさせることで潜伏症例を減少させることに成功した。しかし、新症例における多菌性ハンセン病患者の割合にはキャンペーンを通じて大きな変化はなかった。

1996-2003 年の間に特別キャンペーンが繰り返し実施された地域で検出された総症例数を年別に示した結果では、特に 2003 年のミャンマーのマングレーおよび Magway 地方において減少が見られ、過去 5 回の特別キャンペーンにおいて変化が認められなかったインドの地域の中にも同様の減少が見られた。表 2：特別キャンペーン中に検出された新症例、表 3：特別キャンペーンを繰り返した地域での新症例の毎年の検出傾向

図 1：5 回の特別キャンペーン中の検出傾向、インド、1998 - 2003 年



* 結論：

MDT 改善および一般保健サービスへのハンセン病コントロール統合の強化において特別キャンペーンが非常に有意であることが証明された。国および地域別レベルにおける特別キャンペーン実施後、主要な流行国の大部分で未検出症例数が有意に減少した。結果として、それらの国々における年別の症例検出数は減少の一途をたどっている。現在はおそらく大規模な特別キャンペーンを制限して地方状況を綿密に分析した上での的をしぼった地域にキャンペーンを集中して実施するべきである。これによって、問題とされる対費用効果の改善も期待される。この先、統合された保健サービスの中で、日常的なハンセン病コントロールを強化することによって特別キャンペーンによって得られる成果を維持するのは重要となるだろう。

流行ニュースの続報：＜インフルエンザ＞

香港を除く世界の大部分の地域で第 29-35 週目のインフルエンザ流行は低度のままである。

- ・ アルゼンチン¹：インフルエンザ流行は減衰し第 29 週目から低度のままである。
- ・ オーストラリア¹：シドニーの局所的集団発生が報告された第 34 週目まではインフルエンザ流行は低度に報告されていた。
- ・ 中国¹：中国南部で数回の局所的集団発生が起こった 2004 年 4 月から 8 月に中程度のインフルエンザ流行が見られた。集団発生の大部分は A (H3N2) 型によるものであり、B 型はほとんどなかった。
- ・ チリ¹：インフルエンザ流行は減衰し続け、散発的に発生していた。
- ・ 香港¹：インフルエンザ流行は第 29 週目から中程度のままであり、多くのウイルスが検出された(第 34 週目 184 例、第 35 週目 147 例)。分離株の大部分は A (H3N2) 型である。
- ・ その他の報告：第 29-35 週目にて低度のインフルエンザ流行がブラジル¹、カナダ¹、マダガスカル¹、ニューカレドニア²、ニュージーランド¹、フィリピン、セネガル、南アフリカ¹、タイ²、およびウルグアイ¹で報告された。参照：¹No.30, 2004, p.279、²No.29, p.272 (湊健二、高橋十郎、石川雄一)